

# 京滋コンクリート診断士会 設立総会に40人が集う 長谷川氏を会長に選出

コンクリート構造物を安全な状態で継承するために診断や提案を行う機関として「京滋コンクリート診断士会」が二十二日、設立された。南区の京都テルサで同日、設立総会を開き、ケイコン(株)顧問の長谷川光弘氏を会長に



22日開かれた設立総会

選出した。同会は、日本コンクリート工学協会のコンクリート診断士制度の趣旨に基づき、診断士の技術力・社会的地位の向上を図るとともに、コンクリート

構造物に関して、維持管理補修への貢献や観測・評価、京滋地区遺産の調査などを行うことを目的にして設立された。京都府と滋賀県内に勤務・居住するコンクリート

「土木構造物の管理に

ト診断士を正会員とし、一級建築士やコンクリート主任技士などの専門会員、設立趣旨に賛同する個人や法人からなる賛助会員ら計三〇人で構成。事務局を内外エンジニアリング内(南区)に置いた。設立総会で会長就任が決まった長谷川氏は「高度経済成長期に整備された大量のコンクリート構造物が、四〇年、五〇年経過して劣化が進んでいる」とし、「コンクリート構造物は人の体と同じで、こまめに補修すれば長持ちする」と述べて計画的な補修の重要性を語った。



会長に選出された長谷川氏

関しては、管理する側と恩恵を受けている利用者の心の乖離が大きいと感じている。社会資本を健全な姿で継承するために、互いが同じような目を持つことが大切」と語り、「コンクリート構造物を見る目を養わなければならぬ」とした。

また顧問に就任した立命館大学理工学部の尾崎省二氏、京都大学大学院の河野広隆氏、(株)大林組技術研究所の十河茂幸氏、京都大学防災研究所の田中仁史氏、京都大学大学院の西山峰弘氏が出席し、同会の活躍に期待する祝辞を贈った。

総会では、長谷川会長や(株)構造総合技術研究所の高井俊次氏を副会長にした役員体制を決めたほか、会則を承認。大林組技術研究所の十河氏が「診断士に求められるもの」と題して基調講演を行うなど活動をスタートさせた。